

## 会員発表 ブランド那由多・ザッファロン宮本万基子



まきぼんとなゆぼんです。どうぞよろしく！

まずはウォーミングアップ：後半に行く小嘶実践の為に、顔や体の筋肉をほぐし、笑いが生まれた時の雰囲気（ほぐれた雰囲気など）を感じましょう。

2グループに分かれ・・・



この中からお題が出ます。

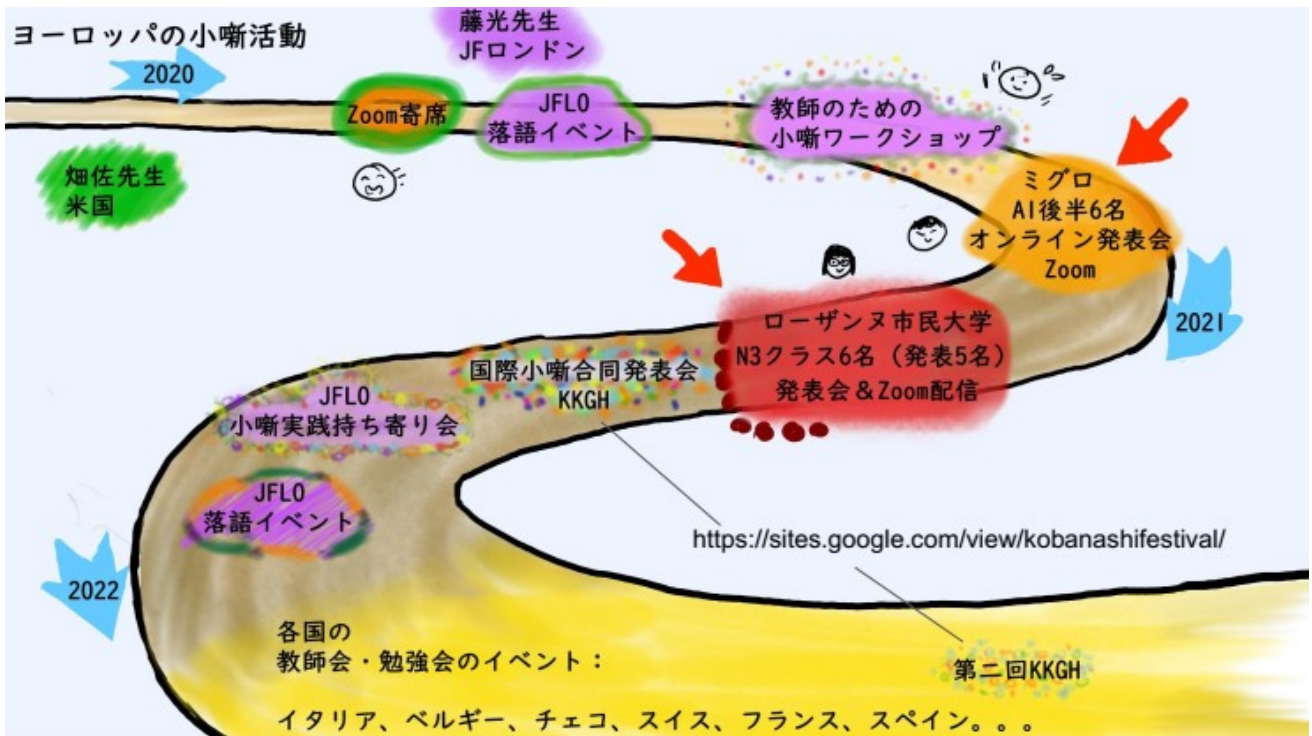
それを片方のグループが彫刻になって表現し、もう片方のグループが三つのうちのどれなのか当てます。挙手グループも、梨グループも、正解率が高かったです。みなさん名演でしたね！

笑いの効果は良いことだらけ！





日本の伝統芸能で、笑いに関係のあるものと言えば、落語。  
そこから今日のテーマの小噺につながります。小噺とは、落語の中の短い笑い話で、主に落語口演のマクラで使われています。



ヨーロッパでは今、小噺を日本語授業に取り入れる取り組みが広がっています。米国パデュー大学で長年小噺を日本語教育に取り入れてきた畑佐先生が、2020年春、コロナが始まったときにZoom寄席を企画され、その後、JFロンドンの藤光先生とのコラボレーションから、様々な落語や小噺をテーマとしたイベントが開かれました。教師向けの小噺ワークショップの事後課題をこなすため、なゆぽんのミグロのクラスで小噺プロジェクトを実践、12月にZoomで観客を招いて発表会をしました。その発表会を見たまきぼんが感銘を受け、特にこのコロナ下での授業内の笑いの必要性を実感し、6か月後に自分のクラスでも実践、教室で発表会を開き、同時にZoomで配信しました。2021年にはその他にも、小噺ワークショップに参加した教師を中心に発足した「国際小噺合同発表会 KKGH」で6歳から70代までの日本語学習者が小噺を披露したり、教師向け、一般向けの落語・小噺イベントが開催されたり、小噺の輪がじわじわと広がっていきました。今年は各地の教師会や勉強会で、実践報告やワークショップが開かれています。4月6日には第二回 KKGH が開催されます。詳細はリンクから↓  
<https://sites.google.com/view/kobanashifestival/>

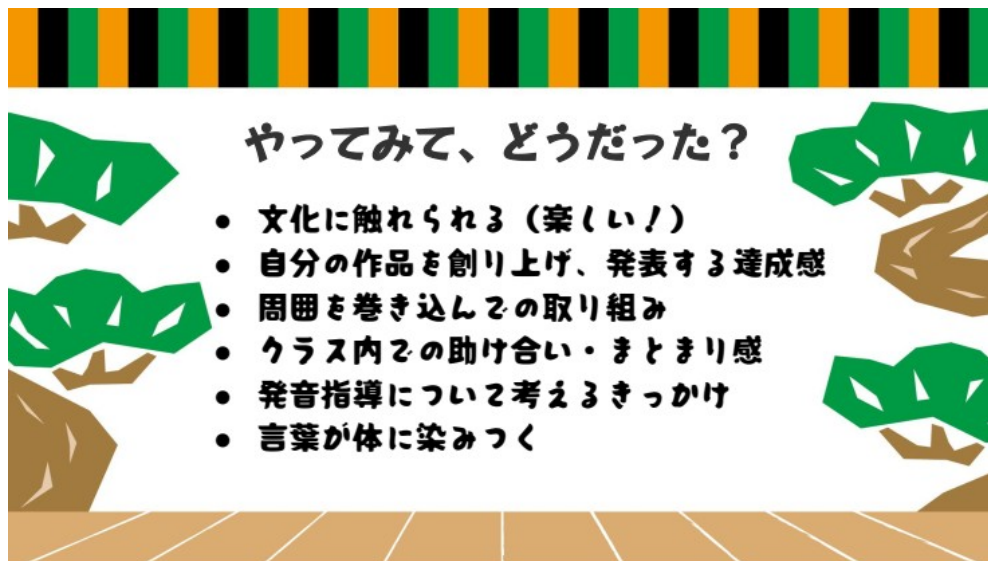


日本語学習者による小噺とは、どういうものか、  
両クラスの発表会のビデオの例をご覧ください。

## 学習者の小噺

整形手術 <https://youtu.be/3DpSS94s8Fw>  
カレンダー <https://youtu.be/NBxCapfchBs>

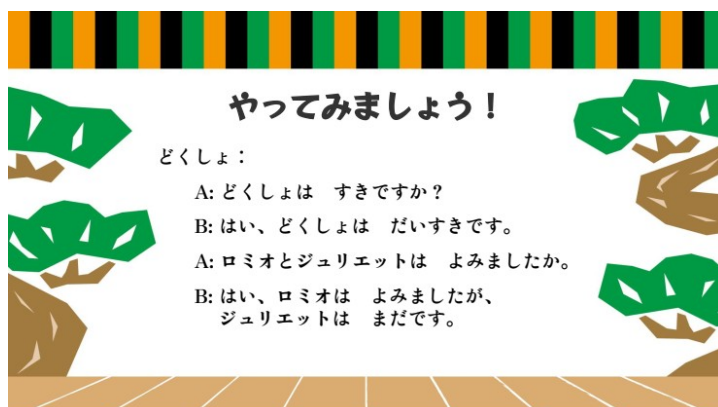
この小噺の活動をやってみて、私達教師が2人とも感じた事です：



## やってみて、どうだった？

- 文化に触れられる（楽しい！）
- 自分の作品を創り上げ、発表する達成感
- 周囲を巻き込んだの取り組み
- クラス内での助け合い・まとまり感
- 発音指導について考えるきっかけ
- 言葉が体に染みつく

- 着物、扇子、手ぬぐい、お辞儀などの文化に直に触れられる。言葉使いや登場人物のかかわりなどからも、文化を感じざるをえない。
- 短いので、初級でも自分の作品を完成させて、発表まで持っていける。
- 家族と日本について話したり、演出に協力してもらったりする機会ができた
- クラスに程よい緊張感・笑いが生まれ、目標を達成するためにクラスのまとまり感が強まった
- 小噺は伝わらないと笑ってもらえないため、一発で伝わるように話す訓練になる
- 何度も繰り返し練習したことで教科書にないような言葉も体に染みつき、別の場面で遭遇した時に分かって嬉しい。



## やってみましょう！

どくしよ：

- A: どくしよは すきですか？  
B: はい、どくしよは だいすきです。  
A: ロミオとジュリエットは よみましたか。  
B: はい、ロミオは よみましたが、  
ジュリエットは まだです。

言葉が体に染みつくって、どんな感覚なのでしょうか。それは、やってみないと分かりません。

と、いうことで、みなさまに実際に体験していただきたいと思います。

ここで大切なことは、今日の活動は、上手い・下手やオリジナリティーを問うものではないということです。

競争ではありませんし、いきなり練習してやるわけですから、初めから上手く出来たら天才かペテン師かエイリアンです。

(落語家さんたちは何十年も修業を積んで高座に上がっていますよね)

今日は、それよりも、やってみて、どんな気持ちになるのか、何を感じているのかに耳をすませながら、「自分との掛け合い」を楽しんでください。

今回のお稽古は、「読書」

これを学習者と小唄風にやるとすると、次のようなステップを踏むことになります。



まず、小唄を読んで理解し（必要な場合は翻訳を使い）それから、前ページの味気ない文章の周りの状況を想像します。落語特有の決まり事、仕草や小道具について知り、練習します。そして最後に発表します。

今日は基本的な仕草を見ていきたいと思います。落語はお辞儀で始まって、お辞儀で終わります。会話文なので、相手と話しているように、目が泳がないように視線を止めて話します。

また、顔の向きを少し変えて登場人物を演じ分けます。



視線を止めるのは、例えば一点を決めて、それを見つめながら相手の顔を想像して話すとやりやすいです。例えばモニターの角に向かって挨拶してみてください。

## 視線を止める

点を決め、そこを見つめて話す



顔の向きを変えて人物を演じ分けることを上下（かみしも）を切ると言います。アングルは、両手を前に伸ばして、指の先のほうを見つめるぐらいです。（～30度ぐらい）



あまり首を振りすぎると、不自然ですし、観客がいない方向にしゃべることになってしまいます。

視線の高さで、位置関係、座っているとか、背の高さなどを表すことができます。たとえば、先ほどの小噺で、Aさんが背が高ければ、Aさんは少し下を向いて話します。Bさんは少し上を向きます。では、AさんかBさんが背が高かったり、座っていたりするバージョンをやってみてください。

## 小道具

落語の小道具、扇子と手ぬぐいは色々なものに見立てて使ってください。

### 扇子と手ぬぐい

#### 色々なものに見立てて使う

今度は二人で場面を相談して決めてください：

**ペアで相談 (2分)**

- 場面を決めてください：
- 誰が、どんな状況で、なぜこの会話をしているのでしょうか。

性別、年齢、場所はどこでしょうか。  
初対面でしょうか？それとも？  
ペアで相談した場面設定を元に実際に演じ合い、場面設定を当て合いましたよ。

**グループで発表 (4分)**

- 演じて、お互いのペアの状況をあてっこしてください。
- 一人で演じてても、二人で演じててもいいです。

お辞儀を忘れずに！

**他言語で挑戦！**

- ミュートにして二人で練習 (4分)
- ペアで発表 (4分)

チャレンジはまだ続きます：  
先程行った「読書」を他言語で挑戦して、学習者の経験したことを実感してみましょう！

当日は、残念ながら発表の時間が取れませんでした。代わりに会長のベルンドイツ語小噺を鑑賞しました。会長の好演、大好評でした！

実際に練習したり、演じてみたりして、なにを感じられましたか？



**感想タイム**

- テキストを小唄風に演じてみて感じたことは？
- 言語を変えて演じてみて感じたことは？

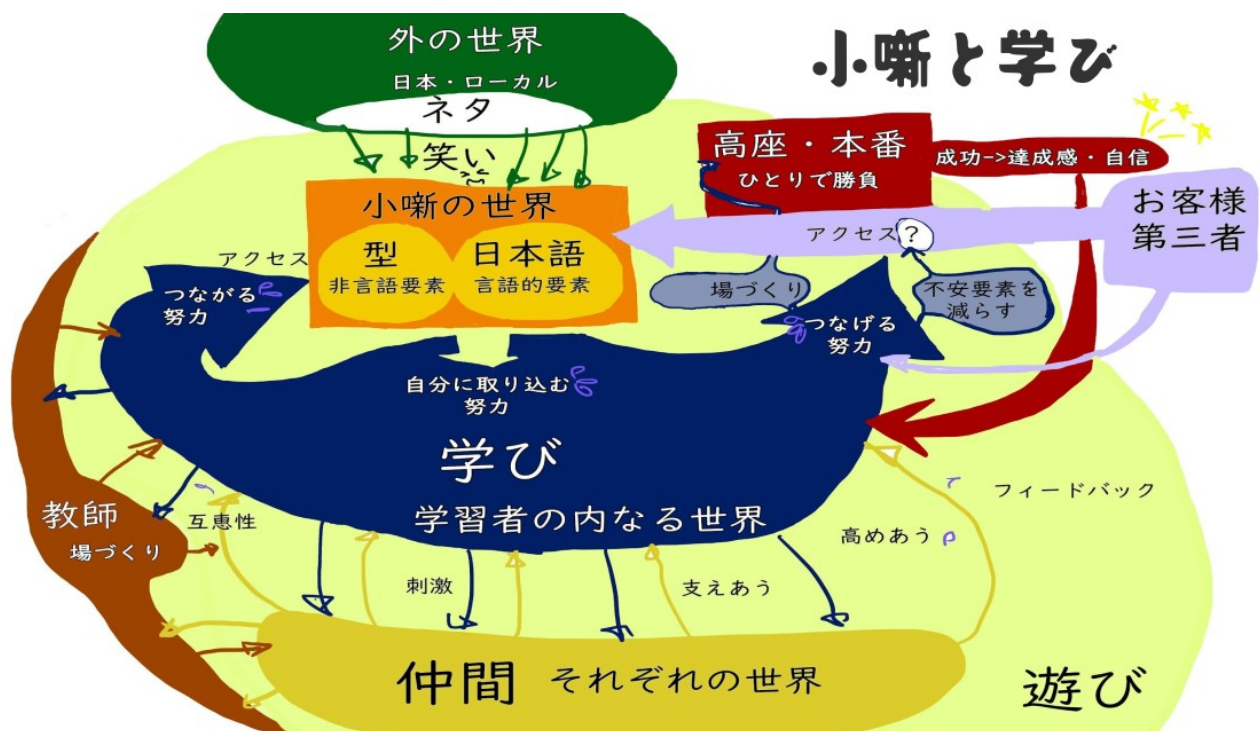
学習者は、どんなことを感じていたのでしょうか。

発表では、なゆぽんのクラスの振り返りビデオをお見せしました。このサイトの一番下から視聴できます。

<https://one-taste.org/kobanashi/koryukai.html>

皆さんが感じられたことと、学習者の感じていたことの中で、きっと重なる部分があったのではないかと思います。

振り返りとして、小唄と学びについての図をご覧ください。



小唄を演じるのは、一人ではできません。

観客がいて、はじめて成立します。また、サポートしてくれたり、一緒に学ぶ仲間や教師、日本の伝統や自分自身の文化とのつながりの中で、日本語で演じることがさらに深い体験となるのではないのでしょうか。そして、それがやらされる「勉強」ではなく、本人の中で「遊び」に変わったときにこそ自然と沢山の学びが起こることと思います。

当日の参加者の皆様、役員・テクニカルサポートの皆様、今回発表の機会をいただけたことに大変感謝しています。どうもありがとうございました。